

# KEICHIKU FIRE DEPARTMENT

2月12日の収録内容は以下のとおりです。

よろしくお願いいたします。

本日の話題は、平成24年中の火災救急救助統計が出来上がりましたので、その結果につきましてご紹介します。

火災については前回お話ししましたように件数は39件でした。まず前年と比較しますと14件の減少となっています。しかし、14件の減少ではありますが、建物火災に関しては、2件の増となっていて、焼損面積、損害額も大幅な増加となっています。

火災を起こさないように一層の注意を呼びかけたいと思います。

救急件数ですが、

平成24年中の救急出動件数は4,193件で、昨年の4,078件と比較して、115件の増となっています。これは平成22年の最高件数4,195件に次ぐ出動件数となっています。この件数を1日平均にしてみますと平均12件となり、約2時間に1回の割合で救急車が出動し、住民の20人に1人が救急車によって搬送されたこととなります。

搬送人員のうち65歳以上の高齢者の救急車の利用率が全体の約67%を占め、都道府県別で高齢者搬送割合が最も高い県が約64%ですのでそれも上回っており、高齢者層の需要率が高いという地域特性を表しています。

救急出動件数を事故種別ごとにみると、第1位が急病(2,624件)で全体の約63%、第2位が一般負傷(656件)で全体の約16%、次に転院搬送が490件で(約12%)、交通事故が300件で(約7%)の順となっています。

119番通報の受信から傷病者を医療機関に収容するまでの所要時間の平均は、当消防本部では34.4分となっています。全国平均は38.1分です。ですから全国平均よりも4分ほど早いということになります。

増加し続ける救急需要や、傷病者の救命率の更なる向上のため、現在当消防本部では、救急救命士24名と高規格救急車6台を配備し、救急業務を遂行しています。

今後も更なる地域住民の救急ニーズに応えるため、より訓練を重ね、あらゆる救急事案に対して対応できるよう努力を続けているところです。

救助件数ですが、

平成24年中の救助出動件数は20件で、前年と比べ8件の減少となっています。

救助人員も7人減少して、16人となっています。

救助事案の種別ごとでは、交通事故に対する出動が9件と全体の約40%を占め、その他の事故が6件、自然災害が2件、機械による事故が2件、水難事故が1件となっています。

特に7月の九州北部豪雨時に2件の自然災害による救助要請を受け、うち1件において要救助者2名を救出する事案が発生しており、今後も自然環境の変化による「自然災害」での出動の増加が予想されます。

当管内は、豊かな自然と風光明媚な土地柄で、特に豊前市の求菩提山や犬ヶ岳、みやこ町の野峠を通る九州自然遊歩道は、登山の対象として人気のスポットとなっているようです。

この頃の登山ブームによる登山者の増加に比例し、山岳事故の増加も増えていることから、山岳救助に対応できる最新資機材と救助方法を導入し、訓練を重ね、あらゆる事故への対応を図っているところです。

登山をされる方は、登山道等の危険個所を事前に調べるなどして、くれぐれも事故にあわないように最善の注意をしていただきたいと思います。

なお、只今ご紹介いたしました統計につきましては、京築広域圏消防本部のホームページでご覧いただけますので、詳しいことをご知りになりたい方はホームページをご覧ください。

「リクエスト曲 : 春よ来い」

新聞等でご紹介いただきましたので、御存じの方もいらっしゃると思いますが、ボンネット型の消防車が引退をすることとなりまして、ただいまラジオ局やテレビ局また、全国のマニアの方の取材や見学が後を絶たない状況です。このように反響があるとは正直思っていませんでしたので、職員一同驚きを隠せないと同時に、手放すのが惜しいような寂しさも大きくなっています。引退時期は3月中です。このラジオをお聞きの皆様もレトロ感いっぱいボンネット型の消防自動車を見学にいらしてください。お待ちしております。